

# フレグランスの香りとボトルとネーミング

## そのⅡ（2000年～現在）

堀田龍志 理事

### はじめに

昨年夏の号のこのページに掲載させて頂いた「フレグランスの香りとボトルとネーミング そのⅠ（1900年～1999年）」に続き、今回は2000年以降から現在までに発売された数多くのフレグランスの中で、特にその香りとボトルデザインそしてネーミングが興味深いと思ったものについて、またいくつか考察してみたいと思う。

なお前回に同じく、本文中のフレグランス名（英語またはフランス語の名称）は、実際の商品ではどのように書かれているかについて各メーカーのHP等で調べて、商品に記載されている名称をそのまま使用した。

### ● 2000年～2010年

2000年代に入ると、世の中的には世界の情勢が大きく変化し、イスラム教徒による反アメリカ主義が大きく世界を揺さぶり始めることになる。2011年9月11日のNY世界貿易センタービルの大惨事は、今も人々の心に大きな傷跡を残していて、2機の旅客機が貿易センタービルに衝突したシーンを決して忘れることは出来ない。そんな暗く悲惨な世情とは裏腹に、香りの世界では一気に陽気なフルーティ香調を持つフレグランスが数多く登場してくる。2000年に発売されたランコム社の“MIRACLE（ミ・ラ・ク）”や、2001年発売のドルチェ&ガッバーナ社の“light blue（ライト・ブルー）”、あるいは2002年にランバン社から発売された、軽いフルーティノートが特徴の“ECLAT D' ARPEGE（エクラ・ドゥ・アルページュ）”などは、今でも国内では化粧品の香りにトリクルダウンされるケースも多く、日本人女性（特に若い世代）には相変わらず嗜好性が高い香りとなっている。

グリーンアップルやライチ、ピーチ、ラズベリーなどのフルーティな香りが、香りの中の重要な要素になっているフレグランスのグループの中で、香りとそのネーミングやボトルデザインで私が個人的に特に興味を持ったのは、前述した“ECLAT D' ARPEGE”と“MIRACLE”である。

“ECLAT D' ARPEGE”は、2002年に久々にランバン社から発売されたフレグランスで、それまでのランバン社のフレグランスには見られなかった、とても軽快でカジュアルで、スパークリングなフルーティノートを持つトップノートが特徴的である。名前を敢えて和訳するならば、「アルページュの輝き」と言ったような意味だろうと思われるが、1927年に27歳の若い調香師アンドレ・フレイスによって創り出された、ランバン社の名香“ARPEGE”の名前を活かした素敵なネーミングになっている。確かにボトルも香りもキラキラした軽やかな印象があるように思う。ボトルはARPEGEの球状のフォルムを残しながら、より丸く球体に近い形へと進化し、中央には母ジャンヌ・ランバンと娘マルグリットを描いた挿絵が印刷されており、初代ARPEGEの精神が息づいている。ボトルの色は透明クリスタルで、中味のうす紫色とキャップのシルバーが見事なハーモニーを見せている。香りの方は、フレッシュなアップルとピーチのフルーティノートがとても軽快で新鮮であり、カジュアル感を感じさせる要因ではないかと思う。そこにライラックの花の香りの新鮮な爽快感が加わり、更に藤の花や金木犀の花の香りも加味されていて、私たち日本人の嗜好にピタリとはまるフルーティフローラル調の香りとなっている。更に広がりや清潔感のあるセダーウッドのウッディ調の香りが加わって、とても優しさが感じられる香りに仕上げられている。



ランバン “ECLAT D' ARPEGE”  
2002年

次に興味深いのは、2000年発売のランコム社の“MIRACLE (ミ・ラ・ク)”である。特にその香りには新しいトレンドを感じさせるものがあった。このフレグランスの名前の意味はもちろん「ミラクル=奇跡」ということになる。最近のフレグランスの



ランコム “MIRACLE”

2000年

よく見られた、そのフレグランスを付ける各々の人がそれぞれに色々と思いつけるような、精神的とも抽象的とも言えるような言葉が付けられており、フランスの会社らしいエスプリが感じられるように思う。この手の名前のフレグランスでは、カルバン・クライン社の“ETERNITY (エターニティ=永遠)”や、ジャン・パトゥ社の“JOY (ジョイ=歓喜)”など、良く知られているものも少なくない。

ボトルデザインはとてもシンプルであり特徴もないが、中に秘められた香りですらその人その人に“奇跡”をもたらすように、あえてシンプルなボトルにしたのかなとも思えなくもない。中味色は上品な色合いのピンク色に作られている。香りの特徴は、何と言ってもトップノートにある“ピンクペッパーコーン (フランス語ではBaies Roses <ベエ・ローズ>が一般的)”と呼ばれる、ペッパーに似たスパイシーフレッシュな香りを持つ天然香料の香りと、爽やかな“ジンジャー (生姜)”の香り、そして中国や台湾では良く食べられる果物“ライチ”のフレッシュなフルーティグリーンな香りである。ピンクペッパーコーンの香りは、このフレグランスの発売前後ぐらいいから今日まで多くのフレグランスの中に使用されるようになって来ており、ブラックペッパーとは異なる、独特のフレッシュ感とスパイシー感を与える素材として重宝されているようである。ミドルから

はマグノリアやジャスミンのフローラルな香りが広がり、ラストには心地良いムスクとアンバーの香りが香る、とても上品な仕上がりになっている。

フルーティノートの特徴とする香り以外では、Thierry Mugler (ティエリー・ミュグラー) 社が“ANGEL (エンジェル=天使)”発売以来、久々に2005年に大々的に登場させた“ALIEN (エイリアン)”というフレグランスは、香り、ボトル、ネーミングの全ての点で大変興味深いフレグランスの一つである。このフレグランスは2005年に初めて市場に登場するが、その後限定ボトル品やフランカーがいくつも発売されている。フランカーとは、最初に出されたオリジナルのフレグランスと全く同じデザインのボトルを有効に使って、中味の色を変えたり、オリジナルの名前に“L'EAU (ロー:水)”や“INTENSE (インテンス:一般にはより濃く、より特徴的なような意味)”を付けたりして、シリーズ品として出されるフレグランスを指すようである。

先ず驚かされるのはその名前である。“ALIEN (エイリアン)”は英語だが、日本語では映画などでも良く知られている通りで「異星人」の意味になる。久々に奇抜な名前のフレグランスの登場だと思った次第である。

ボトルがまた面白く、そのデザインは正に映画やテレビに出て来そうな、“異星人”が立った時の姿のように見える。キャップの吹き出し部分がエイリアンの顔であり、ボトル全体は紫色のマントを羽織ったエイリアンの立ち姿のように思える、何とも奇抜なデザインである。



ティエリー・ミュグラー “ALIEN”

2005年

写真提供: 高砂香料工業株式会社

一方その香りは、ジャスミンティーの香り付けに使用される“Sambac Jasmineサンバック・ジャスミン（和名はマツリカと呼ばれ、オレンジフラワーの香りに似ている）”のフレッシュなホワイトフローラルの香りと、独特な温かさと広がりのある

“Cashmeran（カシメラン）”と呼ばれるウッディ調の合成香料の香りと、力強いドライアンバー調の香りがコンビネーションされた、ウッディフローラル調のしっかりとした香りである。

## ● 2010年～現在

2010年から2016年の現在までにも、毎年600品をはるかにオーバーするぐらいの新しいフレグランスが市場に登場して来ていると言われる。最近では昔市場に出されて一世を風靡したフレグランスのリボン品や、同じ名前でも香りを現代風にアレンジしたもの、あるいは各種フランカーなどが特に多くなっている気がする。そのような市場状況の中で、特に香りやネーミングやボトルデザインの観点で興味を持ったフレグランスは、女性シンガーで世界的に有名なレディー・ガガが2012年に初めて世に送った“FAME（フェイム）”、デザイナーのマーク・ジェイコブスが同じく2012年に発売した“DOT（ドット）”、スペイン生まれのデザイナーであるバレンシアガから2012年に発売された“FLORABOTANICA（フロラボタニカ）”、そして名香“L'Air du Temps”を世に送ったニナリッチ社が、2015年に登場させた“L'EXTASE（レクスタス）”などである。

これらの中で特に興味深いかと思ったものは、レディー・ガガの“FAME”とニナリッチの“L'EXTASE”である。

先ずガガの“FAME”であるが、さすがいつも独創的な衣装でファンの目を楽しませてくれる彼女らしく、そのボトルデザインはとてユニークなものになっている。真っ黒ともいえる液体が入った卵型に近いクリスタルボトルの形は、香りの中にも出てくる毒性のナス科の植物である“ベラドンナ”の実にヒントを得たものではないかと思う。“ベラドンナ”という名前は、イタリア語では「美しい女性」を意味する“Bella Donna”に由来すると言われているが、その実は極めて毒性が強いうで、フレグランス名の“FAME（女性）”というテーマに相応しい、

ガガらしい素材だと感心した次第である。それにしても中味の色を真っ黒に着色するなんて、今までのフレグランスの色の常識では、なかなかチャレンジ出来ない色味であるが、このフレグランスで初めて使用された特許出願中の新しい技術によって、スプレーするとその色がクリアになって、空気に触れると見えなくなるように作られているらしい。ボトルにはゴールドの爪のようにも指輪のようにも見える装飾されたキャップが乗っていて、非常に個性的なデザインに仕上げられている。ボトルを見た時のインパクトは、1985年にクリスチャン・ディオールから発売された“POISON（ポワゾン）”に似て結構強烈なものがある。

香りの方もかなり個性的で、説明によれば“3つのアコード”で構成されているらしい。

一つはダークアコードと呼ばれ、前述のベラドンナの花の香り。

二つ目は蜂蜜、サフラン、アプリコットなどの香りが融合されたセンシュアルなパーツ。

三つ目はタイガーオーキッドやサンバック・ジャスミンなどのフローラルな香りで構成されたライトアコードパーツ。これら三つのアコードが巧みにブレンドされて独創的な香りを醸し出している。



レディー・ガガ “FAME”

2012年 “

もう一つはニナリッチ社が2015年に発売した“L’ EXTASE (レクスタス)”である。

1948年に発売された“L’ Air du Temps”や、2006年にリボンさせた“Nina (ニナ)”のような、今までのニナリッチでは見られなかったような、商品コンセプトが全く違うニナリッチらしからぬ、とてもセンシユアルでエロティックな響きを持つ名前であるのに驚いた。和訳すれば「エクスタシー、陶酔、恍惚」という意味になり、とても挑戦的な名前だと思うが、フランスのメゾンらしいネーミングともいえるかも知れない。



ニナリッチ “L’ EXTASE”

2015年

写真提供：高砂香料工業株式会社

広告の方も、その名前通りにエレガントなセクシーさのあるものになっている。

ボトルデザインは、クラッチバッグのデザインをヒントにしているようで、シンプルでありながら非常に上品な仕上がりになっている。

香りの方もコンセプトに相応しく、センシユアルでセクシーでありながら、女性らしい温もりと広がりのある豊かな香りとなっている。トップノートには、“MIRACLE”に使用されていたピンクペッパーコーンの香りがバランスよく使用されて、爽やかさのある上品な嗅ぎ口に仕立てられ、続くミドルノートでは、高価なナチュラルローズや、ホワイトフラワーのフローラルの香りを散りばめて、華やかで落ち着いた雰囲気を作り出しており、エンディングはセクシャルなムスクの香りやアンバー、セダーウッド、ベンゾインなどが溶け合った、何とも言えない温もりのある香りとなっている。

昨年と今年の二回にわたって「フレグランスの香りとボトルとネーミング」について述べて来たが、

今改めて思うのは、フレグランスにとっては、もちろんその香りが重要であることは疑いもなく、香りがつまらなければ長く愛用してはもらえない訳だが、その香りと同じくらいに、香りが収まるボトルデザインや、そのフレグランスに付けられるネーミングというものがいかに大切なものかということである。近代香水が生まれた20世紀初頭から今日まで、成功したフレグランスを考えてみればそのことが良く理解できる。

今後はどんな名前が流行るのだろうか？ “ALIEN (エイリアン)”ではないが、もっともっと宇宙に関連したようなネーミングが流行るのだろうか？それとも人間の本質や本能に関連する名前が流行るのだろうか？ またボトルデザインでは、進化した新しい素材や3Dプリンターによって、今までは不可能と思われて来たようなデザインボトルも出て来るかも知れない。

ちょっと前になるが、ロンドンの大手デパートで発売された、合成香料1品のみをフレグランスにした商品が予想に反して大売れしたという話を聞いた。このフレグランスは現在日本でも購入が出来るが、今までの我々の世界では考えもしなかったことだ。

今後もまた、ネーミングやボトルのデザイン、あるいはその香りに大いに感動させられるようなフレグランスが出て来ることを大いに期待したい。

《参考にしたWEB資料》

- ① レディー・ガガ “FAME “ : [https://www.kawabe.co.jp/fragrance/LADY\\_GAGA/fame.html](https://www.kawabe.co.jp/fragrance/LADY_GAGA/fame.html)
- ② ベラドンナ : <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%99%E3%83%A9%E3%83%89%E3%83%B3%E3%83%8A>
- ③ ニナリッチ “L’ EXTASE” : [https://www.kawabe.co.jp/fragrance/nina\\_ricci/lextase.html](https://www.kawabe.co.jp/fragrance/nina_ricci/lextase.html)

堀田龍志 プロフィール

資生堂 化粧品開発センター チーフパフューマー

日本調香技術普及協会 理事長

国際香りと文化の会 理事

フランス調香師協会 会員

イギリス調香師協会 会員